

実施報告書

行事名：森林総合研究所四国支所公開講演会

木材利用新時代へ

開催日：平成 29 年 11 月 22 日（水）

開催場所：高知会館（高知県高知市）

参加者数：51 名（関係者含む）

概要：

日本の人工林の半数以上が主伐期を迎え、資源を有効利用することが必要となっています。木材利用の大きな割合を占める建築分野では、公共建築物等木材利用促進法が施行され、木造建築の新たな可能性が模索される中、直交集成板（CLT）の開発に期待が寄せられており、中層建築物への木材利用に向け木質耐火構造部材の開発も進められています。

木質バイオマスの分野では、バイオマス発電のみならずセルロースナノファイバーなど新たな化学原料としての利用にも近年、めざましい発展が見られます。

国産材の利用が森林整備の促進や地球温暖化防止に貢献する視点から、一定規模以上の建物の建設には一定量以上の国産材の使用を求める「みなとモデル」のような自治体レベルでのユニークな取組みも始まり、さらに環境への影響負荷が見える化し、他材料との差別化を図るため、ライフサイクルアセスメントの観点から木材利用をとらえる試みも進められています。

本講演会では、最先端の利用技術を紹介するとともに、四国の木材流通の現状も踏まえ、これからの木材利用についてご参加の皆様とともに論議を深めたいと思います。

以下は講演タイトルと発表者です。

当日の発表要旨集はこちらからダウンロードできます。

http://www.ffpri-skk.affrc.go.jp/event/event_index.html

基調講演

「木材利用の意義と展望 ～魅力的な技術と環境影響の視点から～」

服部 順昭（東京農工大学 名誉教授）

講演

「わが国における CLT の現状と今後の可能性」

宮武 敦（森林総合研究所複合材料研究領域 チーム長）

「中層木造の建築を可能とする木質耐火構造の技術開発」

原田 寿郎（森林総合研究所 四国支所長）

「森林総合研究所が進めるバイオマス利用研究」

木口 実（森林総合研究所 九州支所長）

「四国の木材流通の現状」

志賀 薫（森林総合研究所四国支所流域森林保全研究グループ 主任研究員）

講演終了後は、講演者の他、井上誠一郎氏（宇和国産材加工協同組合 代表理事）、乃一広志氏（高知県林業振興・環境部木材産業振興課 チーフ）、山中秀直氏（高知県立森林技術センター 資源利用課長）をパネラーに加え、原田四国支所長がコーディネータとして進行し、最先端の木材建築技術の開発・化学原料としての発展および四国の木材流通の現状を踏まえ、今後の木材資源利用について活発な議論が行われました。

当日は来場者それぞれの立場からの貴重なご意見等を伺うことができ、木材利用への関心の高さが感じられました。

写真

